

2021年3月期 決算説明会



株式会社 **アルス物流**

(東証一部：9055)

2021年5月11日

代表取締役
社長執行役員

臼居 賢

2021年1月 東京証券取引所市場第一部へ上場

株主・投資家様をはじめ
ステークホルダーの皆様からの
ご支援の賜物であると
心より感謝いたします



第Ⅰ部： 2021年3月期 決算概要

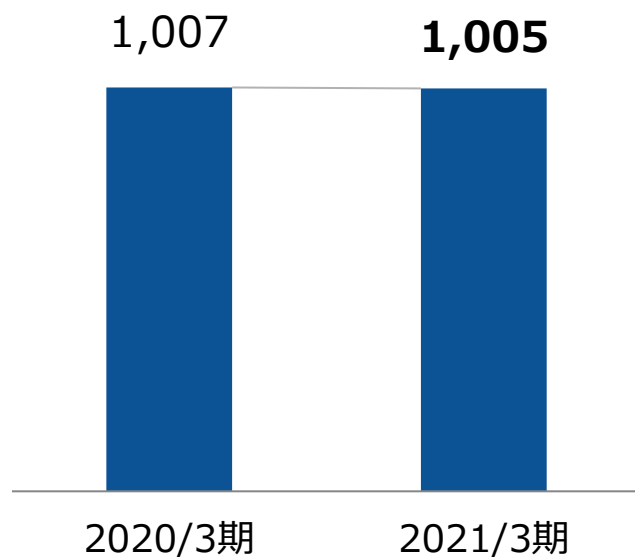
第Ⅱ部： 2022年3月期 見通し

第Ⅲ部： 今後の取り組み

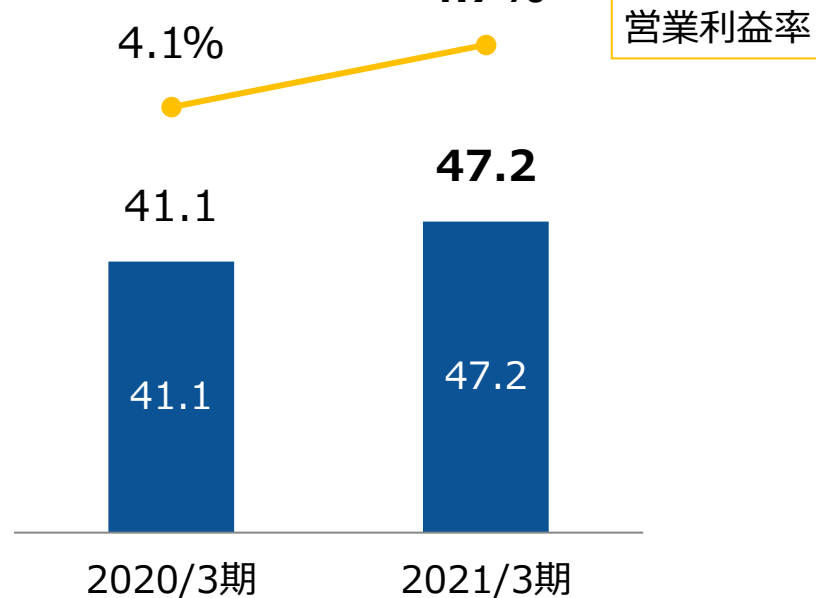
1. 電子部品関連
2. 消費物流（「流通サービス」）

| (単位:百万円) | 2020/3期 実績 | 2021/3期 | |
|---------------------|---------------|---------|-----------|
| | | 実績 | 増減率 (対前期) |
| 売上高 | 100,741 | 100,562 | △0.2% |
| 営業利益 | 4,118 | 4,725 | 14.7% |
| 経常利益 | 3,886 | 4,926 | 26.8% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 2,389 | 2,900 | 21.4% |

■ 売上高 (単位: 億円)



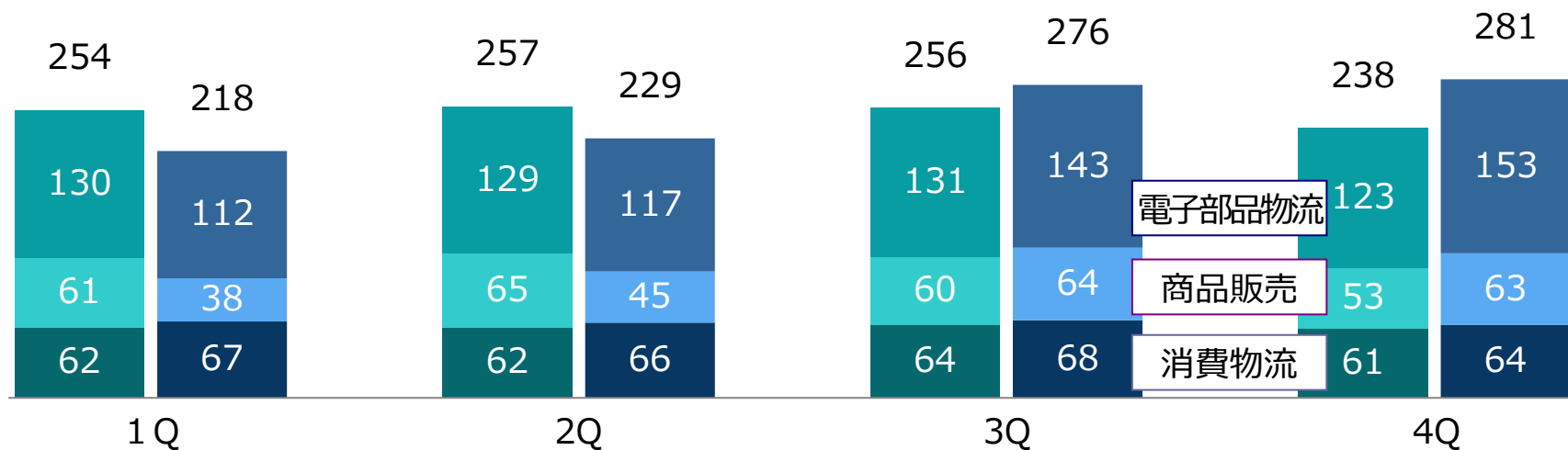
■ 営業利益 (単位: 億円)



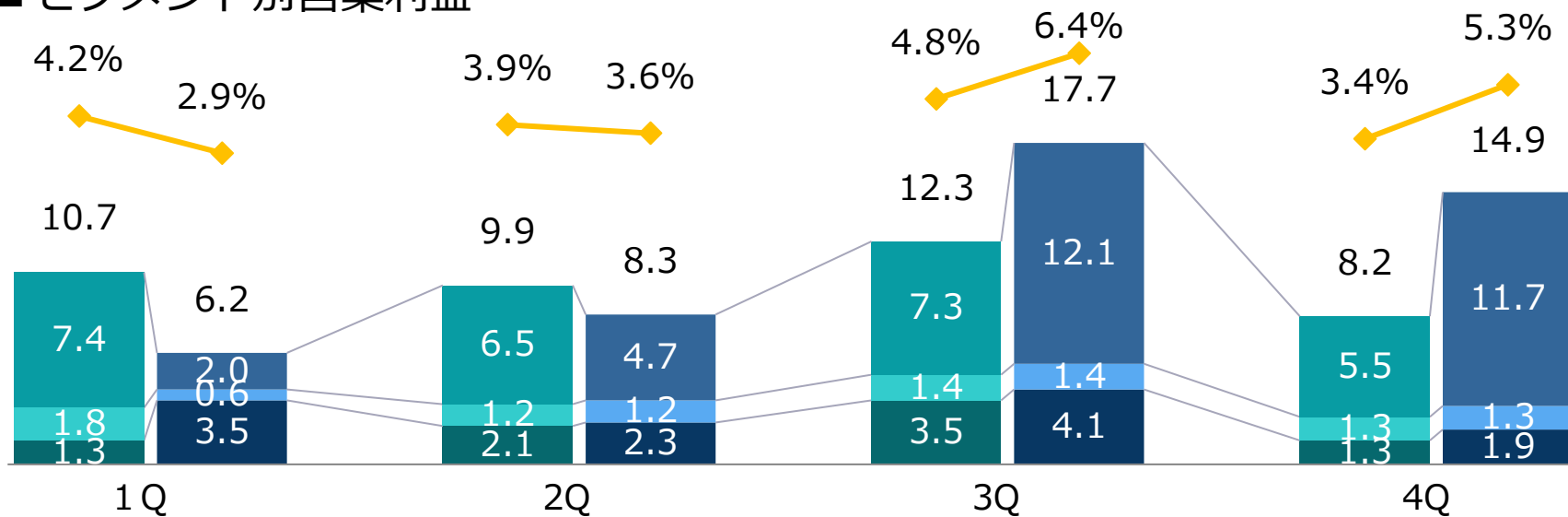
■セグメント別売上高



(単位：億円)

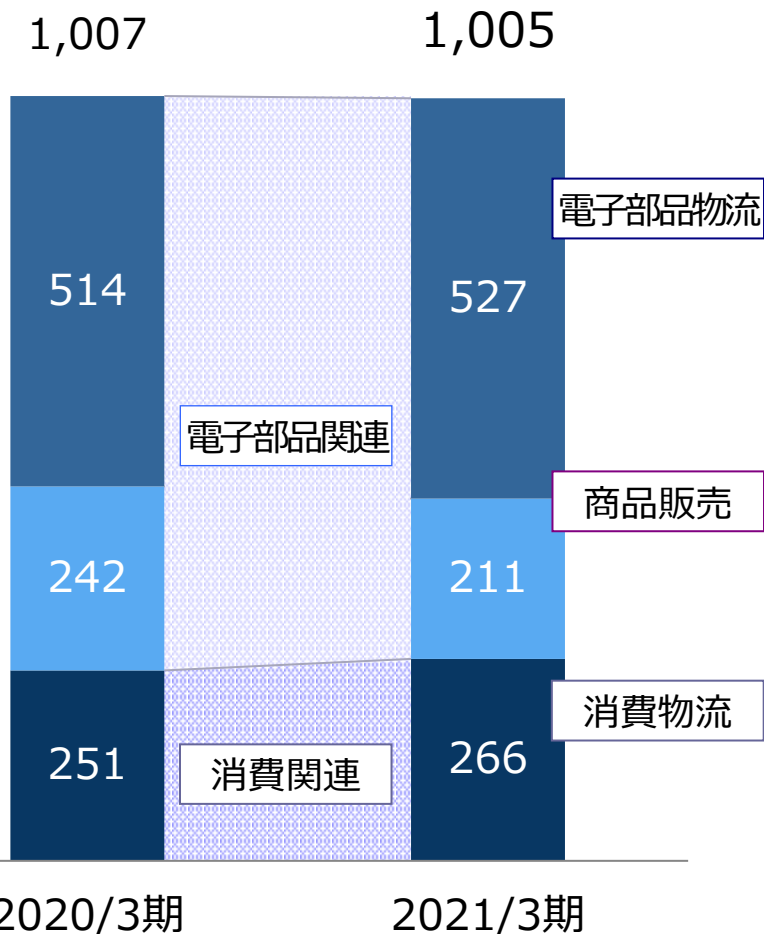


■セグメント別営業利益



■ セグメント別売上高

(単位：億円)

前期比 $\triangle 1.7$ 億円 ($\triangle 0.2\%$)

■ 電子部品物流 +13 億円

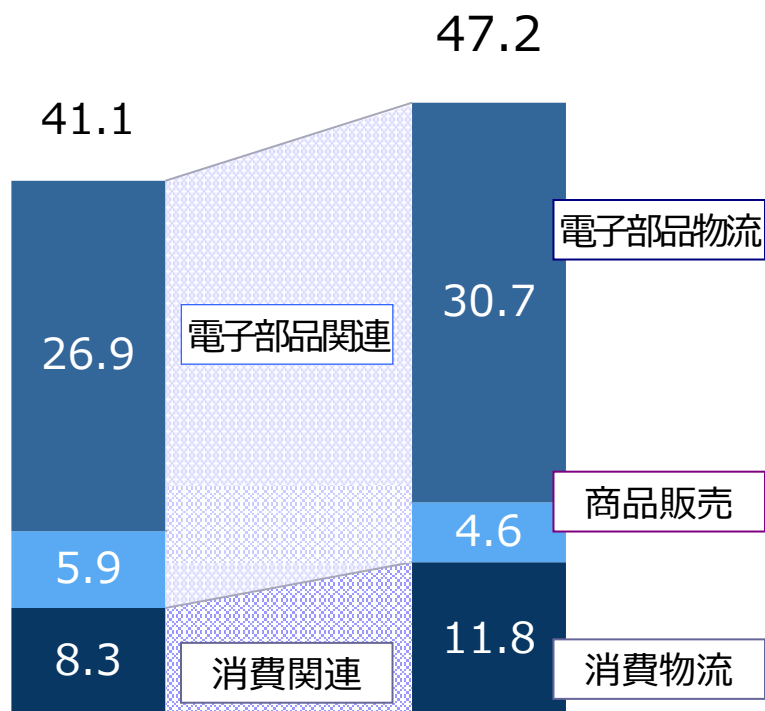
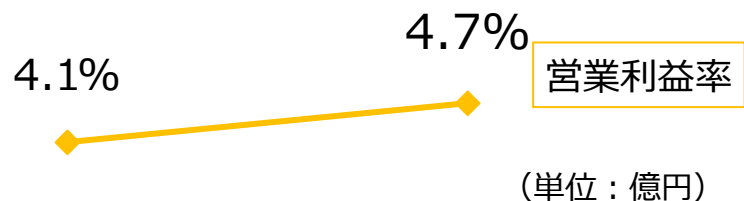
新型コロナウイルスの影響で前半減少も
第2四半期後半から車載を中心に回復■ 商品販売 $\triangle 31$ 億円下期は需要回復により挽回したが、前半
の市況悪化と海外顧客の現調化で減

■ 消費物流 +15 億円

外出自粛や在宅勤務の拡がりによる
宅配需要などの増加で売上高過去最高

※各セグメントの売上高は連結消去後の数値です

■ セグメント別営業利益



2020/3期

2021/3期

※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です

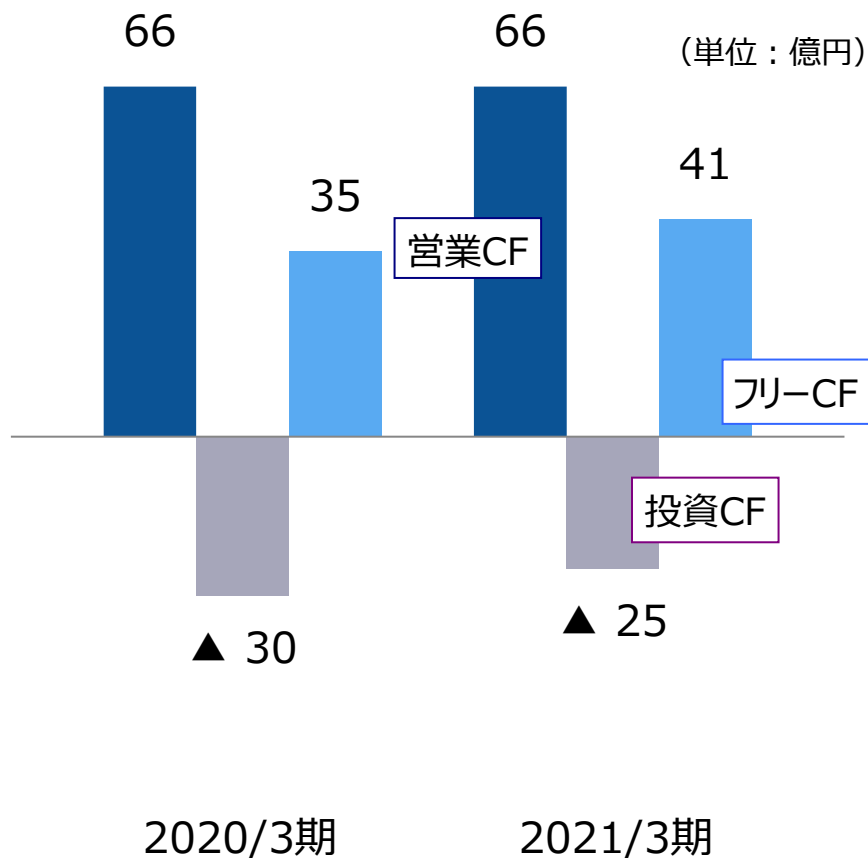
前期比 **+6.0 億円 (14.7%)**

■ 電子部品物流 + 3.8 億円
生産性向上によるコスト減と新規拡販による増収効果により利益増

■ 商品販売 △ 1.2 億円
売上減少による利益減

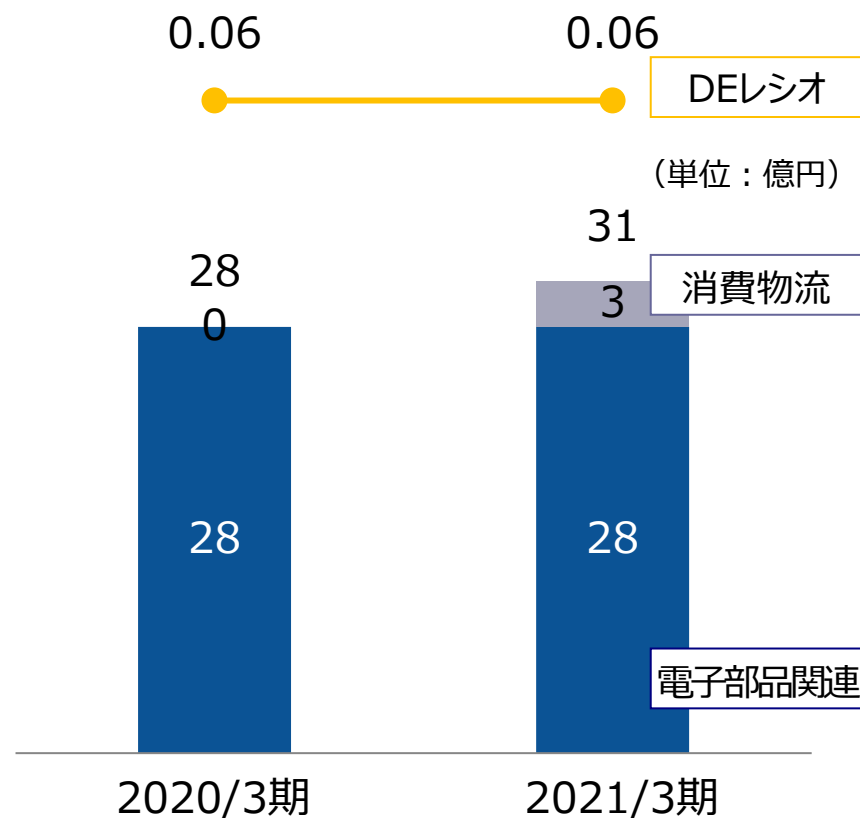
■ 消費物流 + 3.5 億円
労務費は増加したが、増収効果と生産性向上などによる増で営業利益過去最高

■ キャッシュフロー



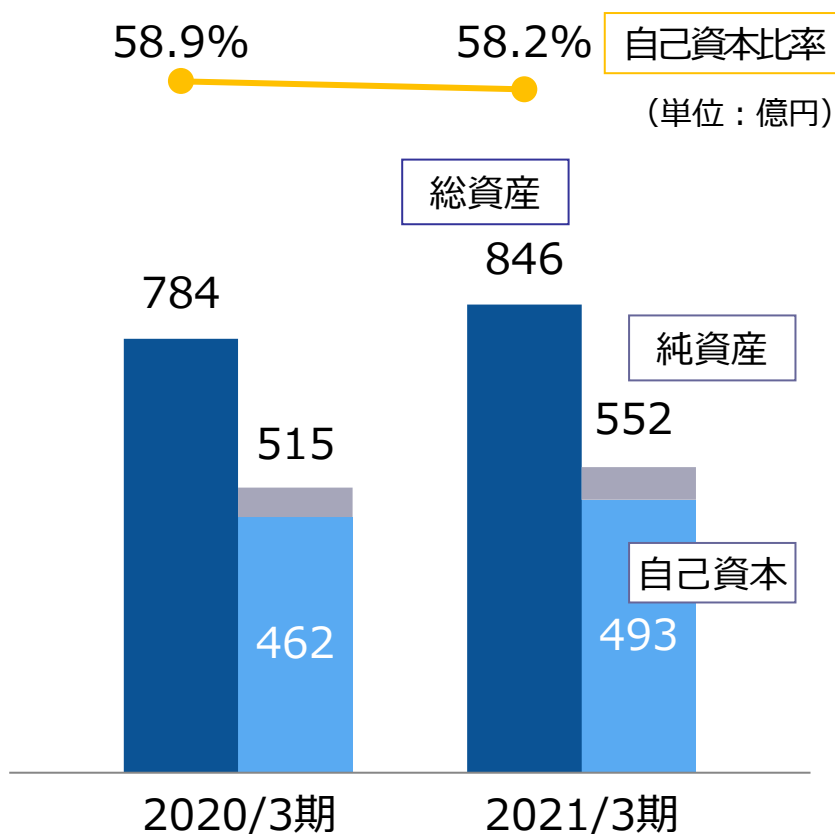
営業CF: 利益増も、期末売掛金増で横ばい
 投資CF: 建物投資支出の減

■ 有利子負債残高



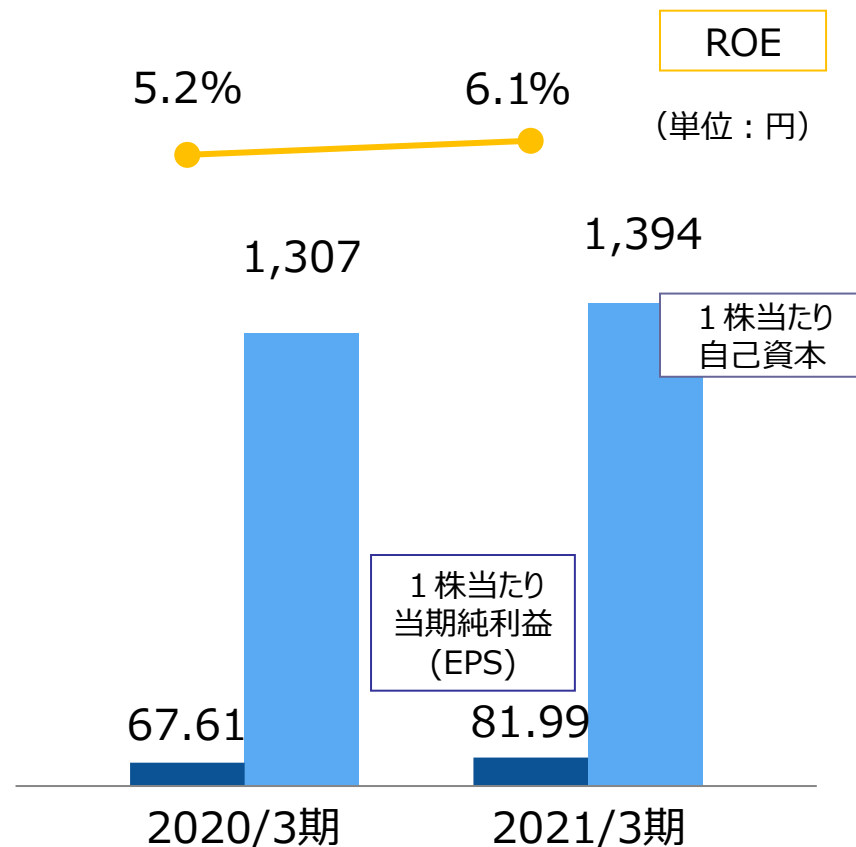
借入金：消費物流で増加
 DEレシオ：資本・借入共に増で横ばい

■ 資産状況



総資産: 現預金や売掛金増による増
自己資本比率:
自己資本増も、総資産増により低下

■ 1株当たり指標



親会社株主に帰属する当期純利益の増に伴い、EPS +14.38円、ROE +0.9p

第Ⅰ部： 2021年3月期 決算概要

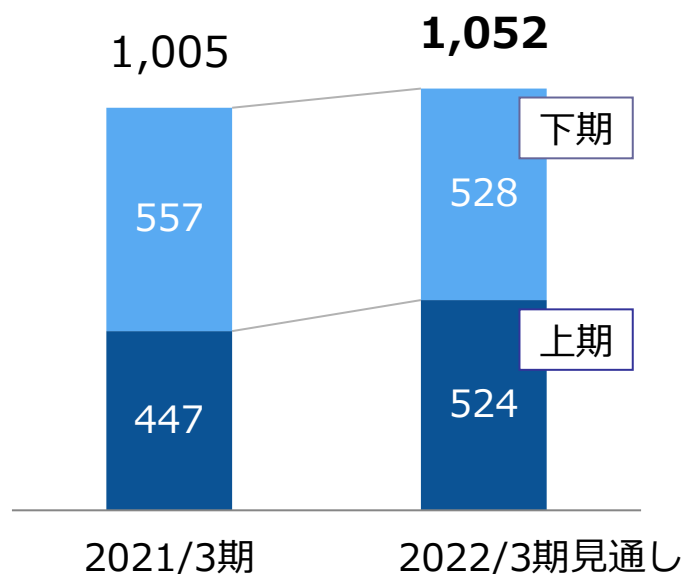
第Ⅱ部： 2022年3月期 見通し

第Ⅲ部： 今後の取り組み

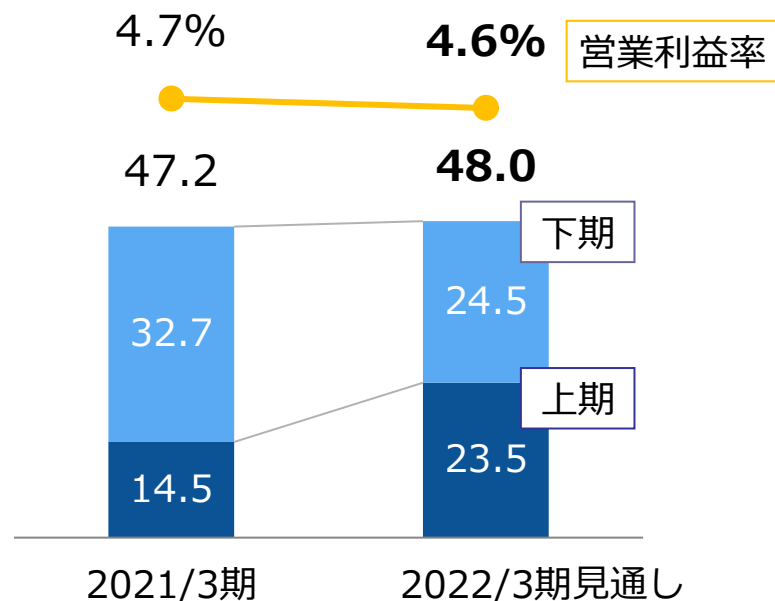
1. 電子部品関連
2. 消費物流（「流通サービス」）

| (単位:百万円) | 2021/3期 | | 2022/3期 | | |
|---------------------|---------|-------|---------|-------|---------|
| | 実績 | 利益率 | 見通し | 利益率 | 増減率 |
| 売上高 | 100,562 | - | 105,200 | - | + 4.6 % |
| 営業利益 | 4,725 | 4.7 % | 4,800 | 4.6 % | + 1.6 % |
| 経常利益 | 4,926 | 4.9 % | 4,700 | 4.5 % | △ 4.6 % |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 2,900 | 2.9 % | 2,800 | 2.7 % | △ 3.5 % |

■ 売上高 (単位: 億円)

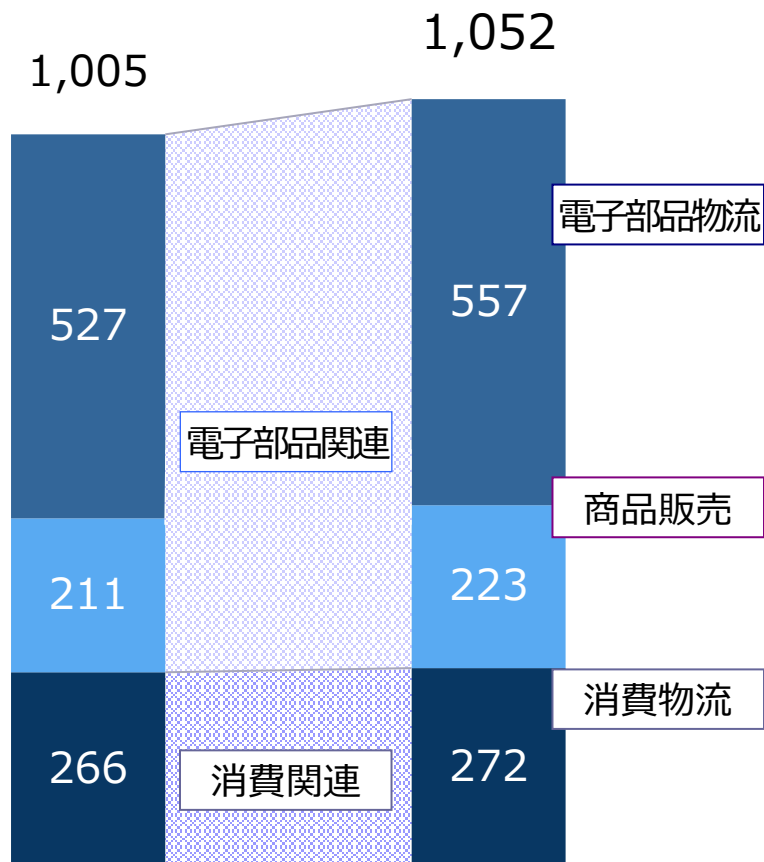


■ 営業利益 (単位: 億円)



■ セグメント別売上高

(単位：億円)



2021/3期

2022/3期見通し

※各セグメントの売上高は連結消去後の数値です

前期比 **+46 億円 (+4.6%)**

■ 電子部品物流 + 29 億円

国内中心に運送・保管事業が増加、
海外は輸出入事業が減少

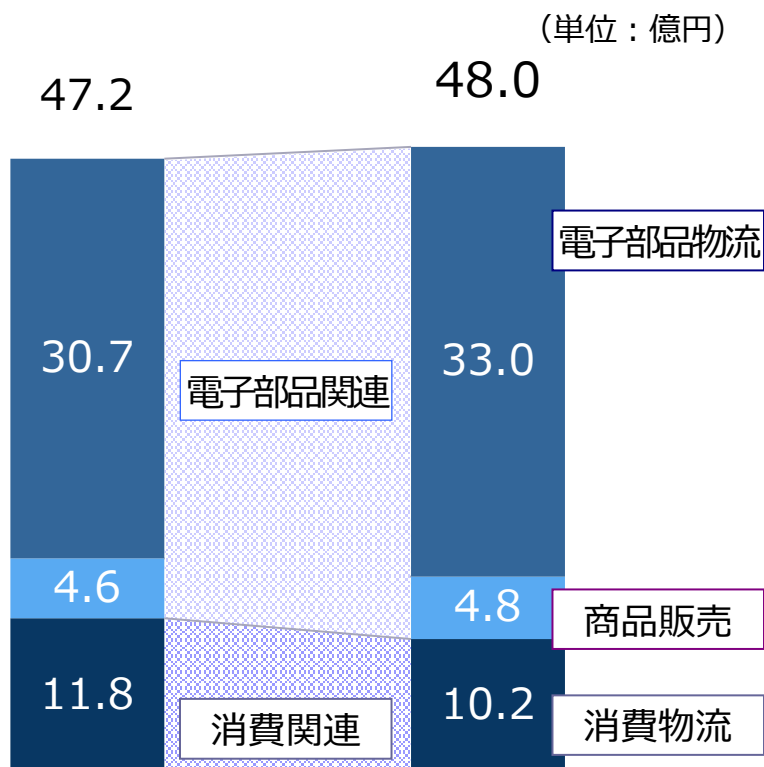
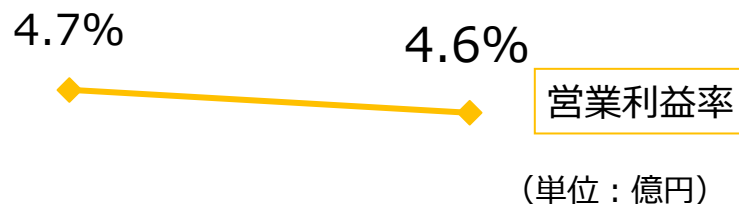
■ 商品販売 + 11 億円

包装・デバイス・成形材全分野増加

■ 消費物流 + 5 億円

医薬品輸配送事業の領域拡大や通販
物流の拡販などを図り増加

■ セグメント別営業利益



2021/3期

2022/3期見通し

※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です

前期比 **+0.7 億円 (+1.6%)**

■ 電子部品物流 + 2.2 億円

増収効果と生産性向上による増益の一方
コロナ収束を見据えて活動費用は増加

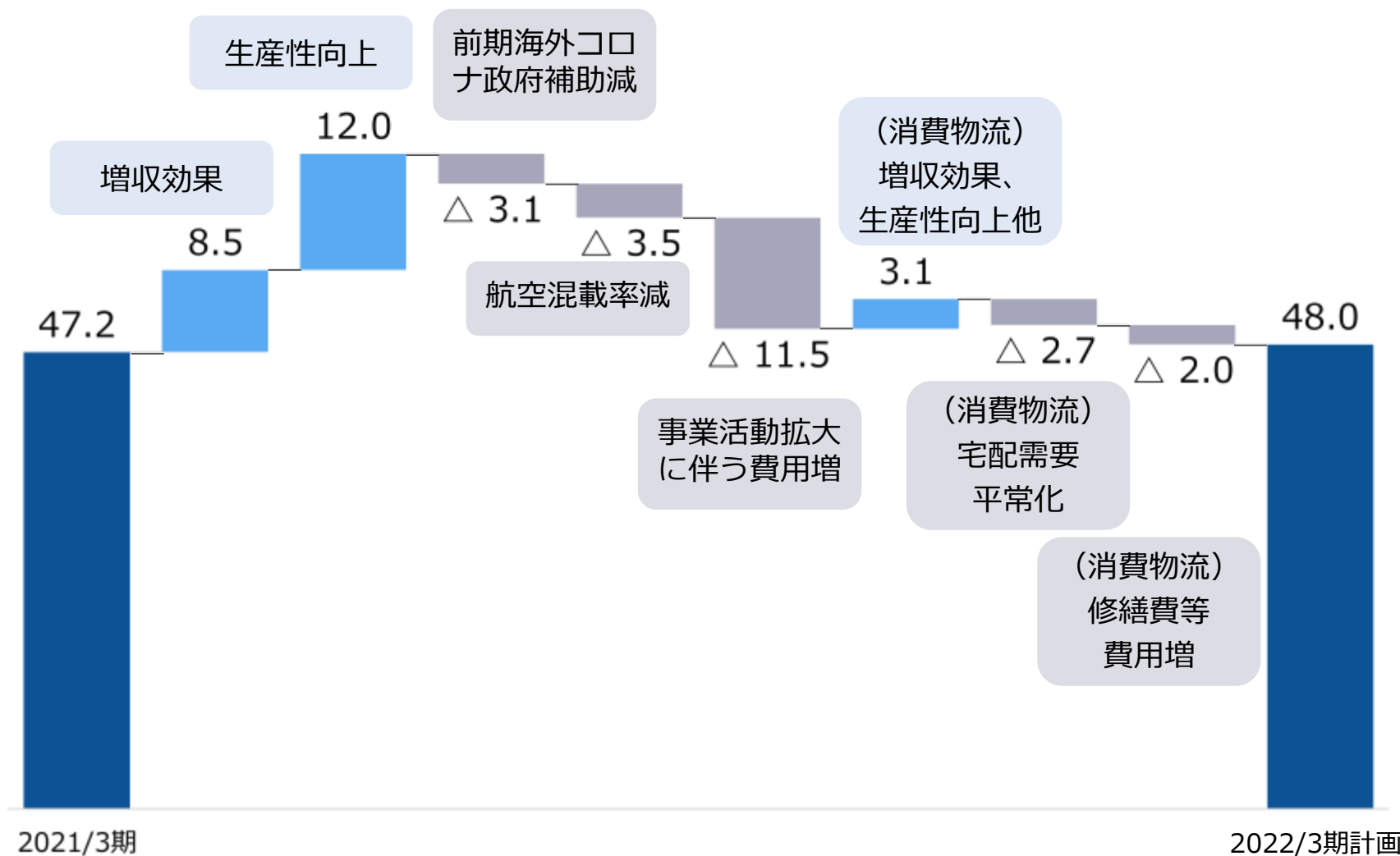
■ 商品販売 + 0.1 億円

増収に伴い営業利益も微増

■ 消費物流 △ 1.6 億円

増収による利益増や生産性向上を図る一方、
大規模修繕費発生などにより減少

増収と生産性向上効果の一方、前期特殊要因消え、利益微増



第Ⅰ部： 2021年3月期 決算概要

第Ⅱ部： 2022年3月期 見通し

第Ⅲ部： 今後の取り組み

1. 電子部品関連
2. 消費物流（「流通サービス」）

1. 電子部品関連



進化する「最適物流」をより多くのお客様に

「成長軌道への回帰」 「企業クオリティの向上」

GTB (Business) 市場と商品の拡大

- ① HUB拠点の機能拡充とネットワークの強化
- ② 車載・産機市場向け事業基盤の拡充
- ③ 市場・地域に適合した商品力強化

GTP (Profit) 間・直の生産性向上

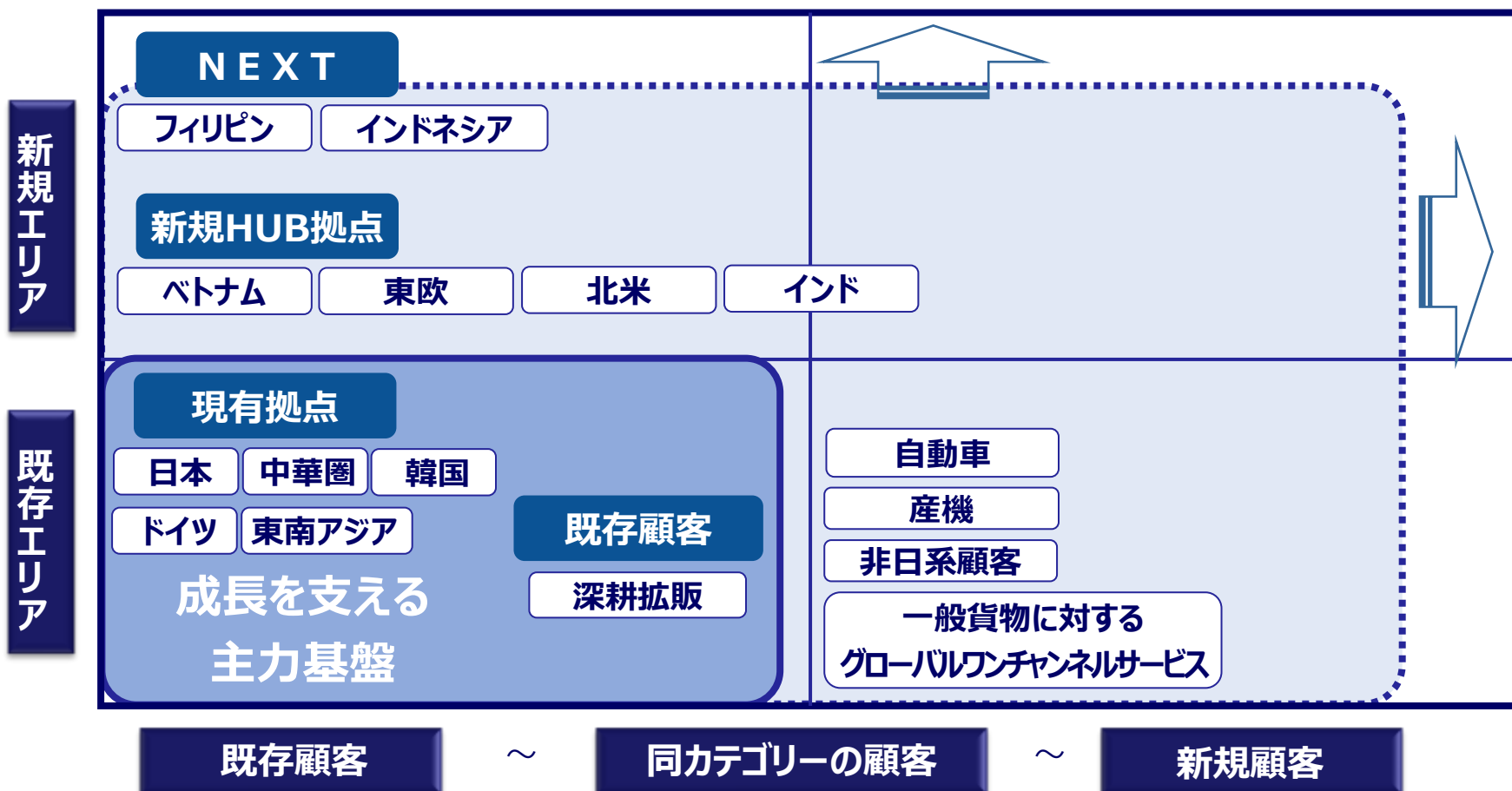
- ① IT・自動化・TIEの進化と導入拡大
- ② 資本効率重視の戦略投資
- ③ 改善活動のレベルアップ

GTC (Confidence) 選ばれる会社

- ① 従業員のスキルと満足度向上
- ② QCマインドの向上と品質保証体制の定着
- ③ ESGの取り組み強化

地域と市場・顧客の2つの軸でGTB伸長

- HUB拠点の整備と、ネットワークの充実
- 自動車・産機に加え、輸出入中心に一般貨物へチャレンジ



北米

- 米墨間クロスボーダー物流の体制強化
- 米国内S&D拠点の拡充
アトランタ、シカゴなど
- メキシコ中央高原地区のネットワーク強化



米・アトランタ倉庫

欧州

- 東欧の車載関連物流強化
ハンガリー・チェコなど
- 輸出入事業のサービス拡充
東欧・北アフリカ向け、
フランクフルトのハブ拠点化



ハンガリー事務所

インド

●現地法人 2 社の経営安定化

デリー、グジャラート

●インド内ネットワークの拡充

バンガロール～チェンナイ・プネ

●高品質な保管・運送による
車載物流対応

インド・グジャラート倉庫

ASEAN・韓国

●地域内拠点展開・増強を継続

ベトナム・ハノイ空港

タイ・アユタヤ

韓国・亀尾など 検討中

●輸出入の自営体制の整備

ベトナム、マレーシア



タイ・アユタヤ倉庫

中華圏

- 内需型ビジネスの拡大
倉庫キャパシティ増強
- サービス体制の向上
通関専門会社設立、AEO取得
- 輸送モードの拡大
内航船&陸送サービス



華東・華南地区にて
倉庫キャパシティを
増強



日本

- 運送：幹線便の統廃合、集配便の拡大
- 保管：IT化推進、入出庫業務の効率化
- 横浜・中京地区 主要拠点の増強
- システム機能増強と効率向上
WMS（倉庫管理システム）・輸出入システム

横浜・中京地区 主要拠点の増強

● 横浜に新倉庫を建築

2021年11月着工

2022年9月竣工予定

倉庫面積：9,000m²

神奈川県横浜市（横浜営業所敷地内）

● 中京地区に新倉庫を建築

2024年竣工予定

倉庫面積：30,000m²

● 加須2期倉庫の検討



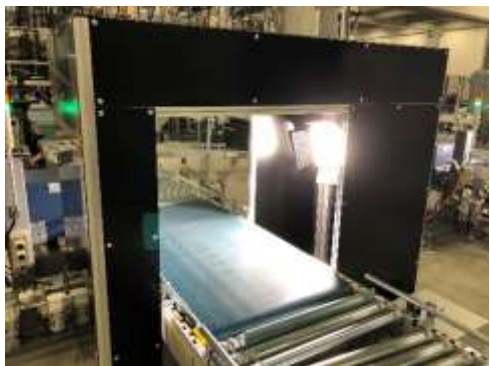
● 営業所・デモ等



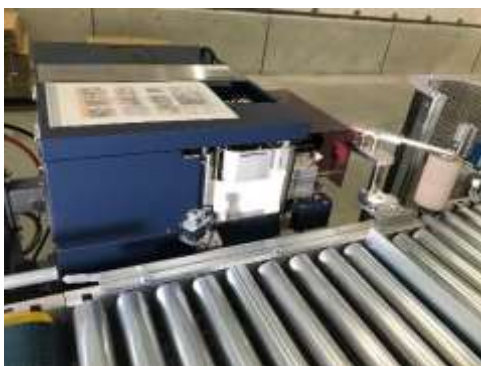
横浜新倉庫 完成予想図

自動化機器の横展開

● 自動倉庫機器の導入（西宮倉庫に続き、成田倉庫にて）



オートスキャナー



オートラベラー



検量

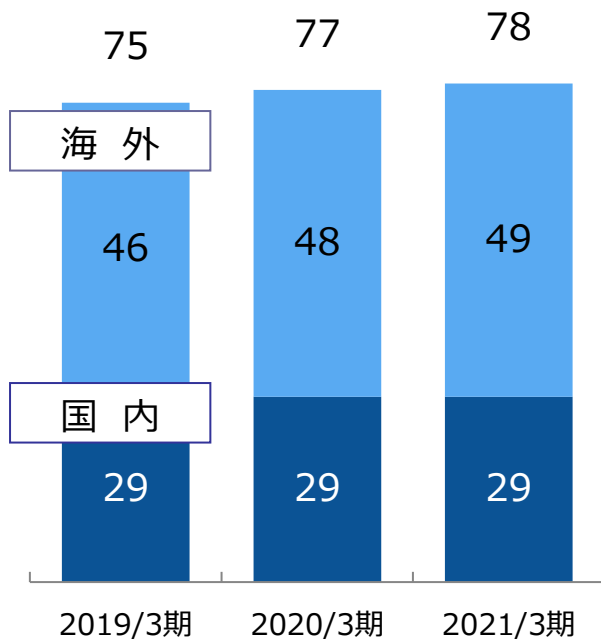
● 自社開発 自働ラベル貼付2号機の導入



- 小径リール品へ自働でラベルを貼付
- 6000～8000枚/1日のスピードで貼付可能

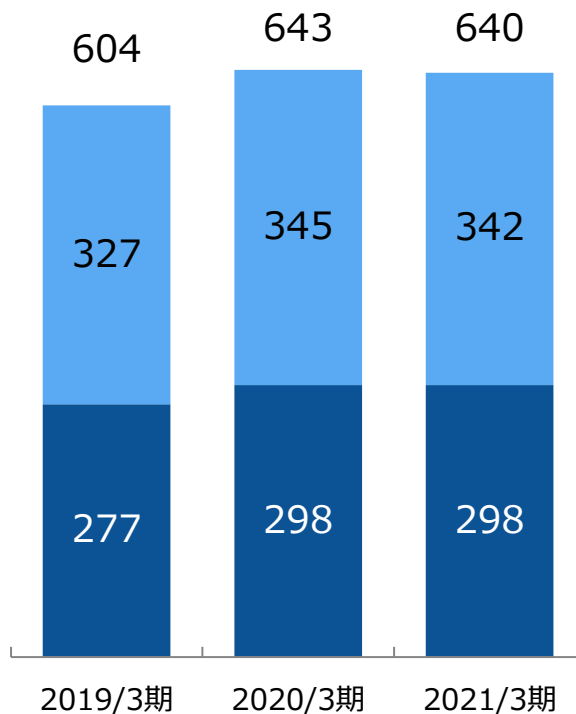
■ 拠点数

(単位：箇所)



■ 倉庫面積

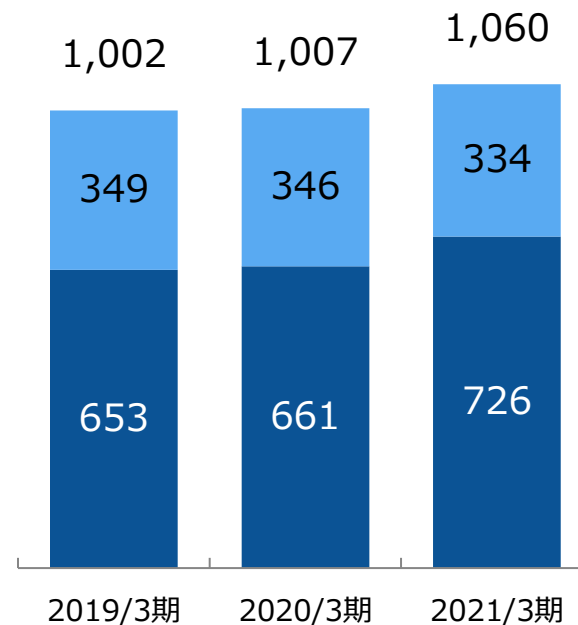
(単位：千㎡)



■ トラック

(単位：台)

定期運行台数



2. 消費物流 (流通サービス)



現場力強化と事業革新

売上高300億円超えに向け、物流価値の創造

GTB (Business) 持続的成長

- ① 物流拠点の再編と体制強化
- ② 周辺領域拡大・新市場へチャレンジ

GTP (Profit) 収益最大化

- ① 直・間一人ひとりの生産性向上
- ② コスト構造革新

GTC (Confidence) 現場力強化

- ① 顧客ニーズを深耕し新たな価値を提供
- ② 「環境・社会との調和」「ガバナンスの強化」

物流領域の拡大と“キレイをハコブ”を進化

地域密着の
生活関連ビジネス

新事業開発



川上物流

B to B
調達・拠点間輸送

生協・外食

保管出荷

配送

宅配

既存顧客・ビジネス

EC（化粧品・日用雑貨品・食品）

保管出荷

流通加工

配送

川下物流

B to B+C
店舗・個人向配送“キレイをハコブ”
化粧品・医薬品

新顧客開発



業界最多330台のAGV導入で労働負荷大幅低減

- ピッキングから検品梱包までの搬送を自動化
- AI技術を活用し、最適なルートで走行
- 省人化とともに、1時間当たりの出荷能力30%アップ[○]
- 他社導入に向けて検討開始





■ 拠点数

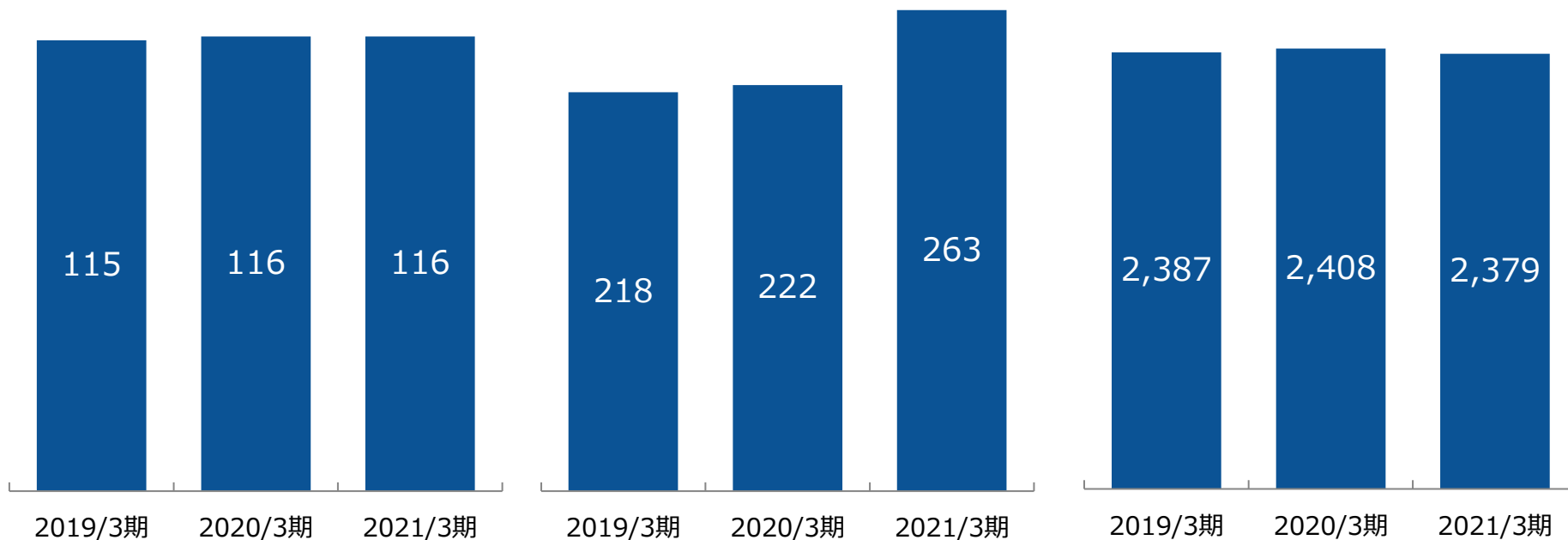
(単位：箇所)

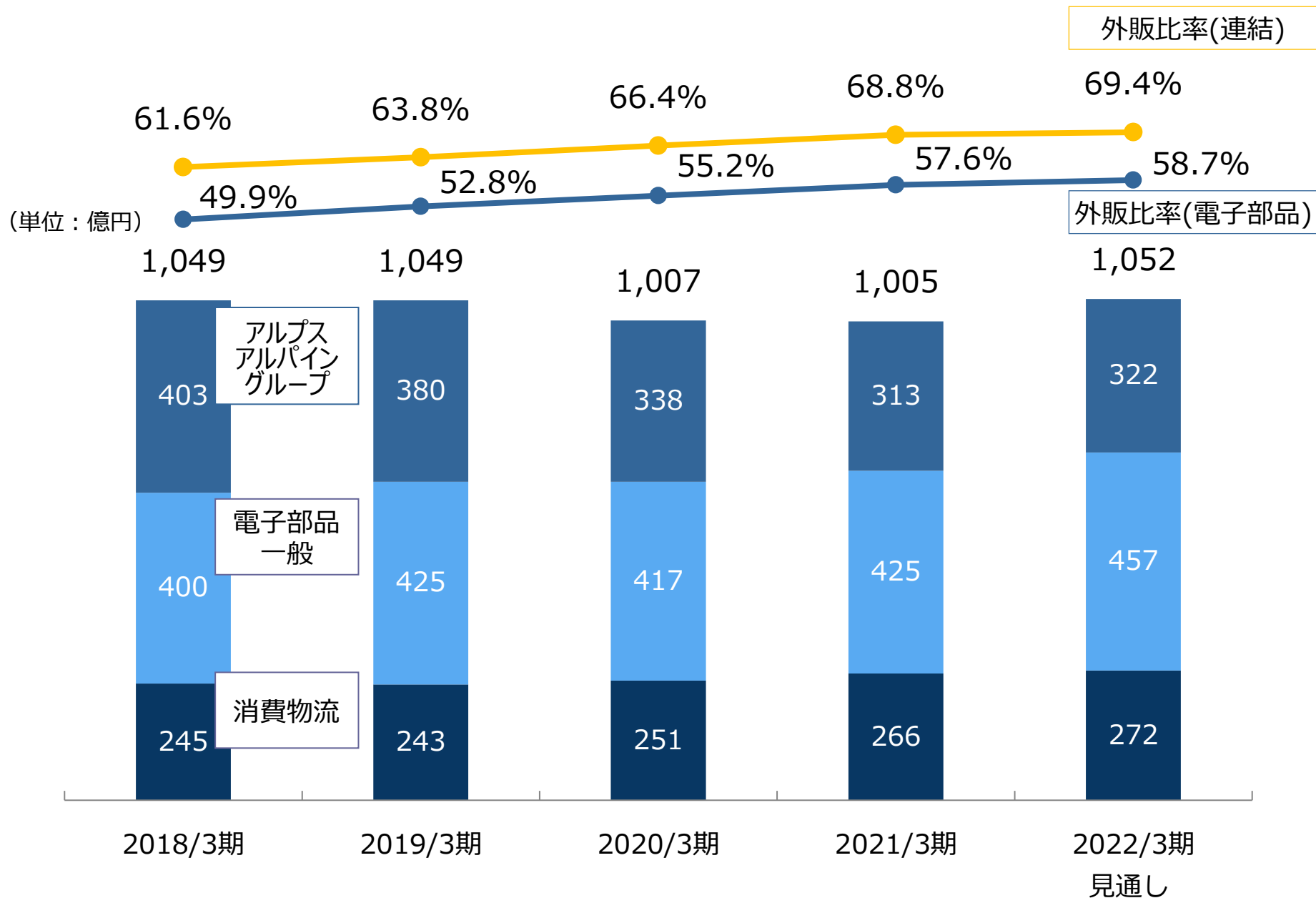
■ 倉庫面積

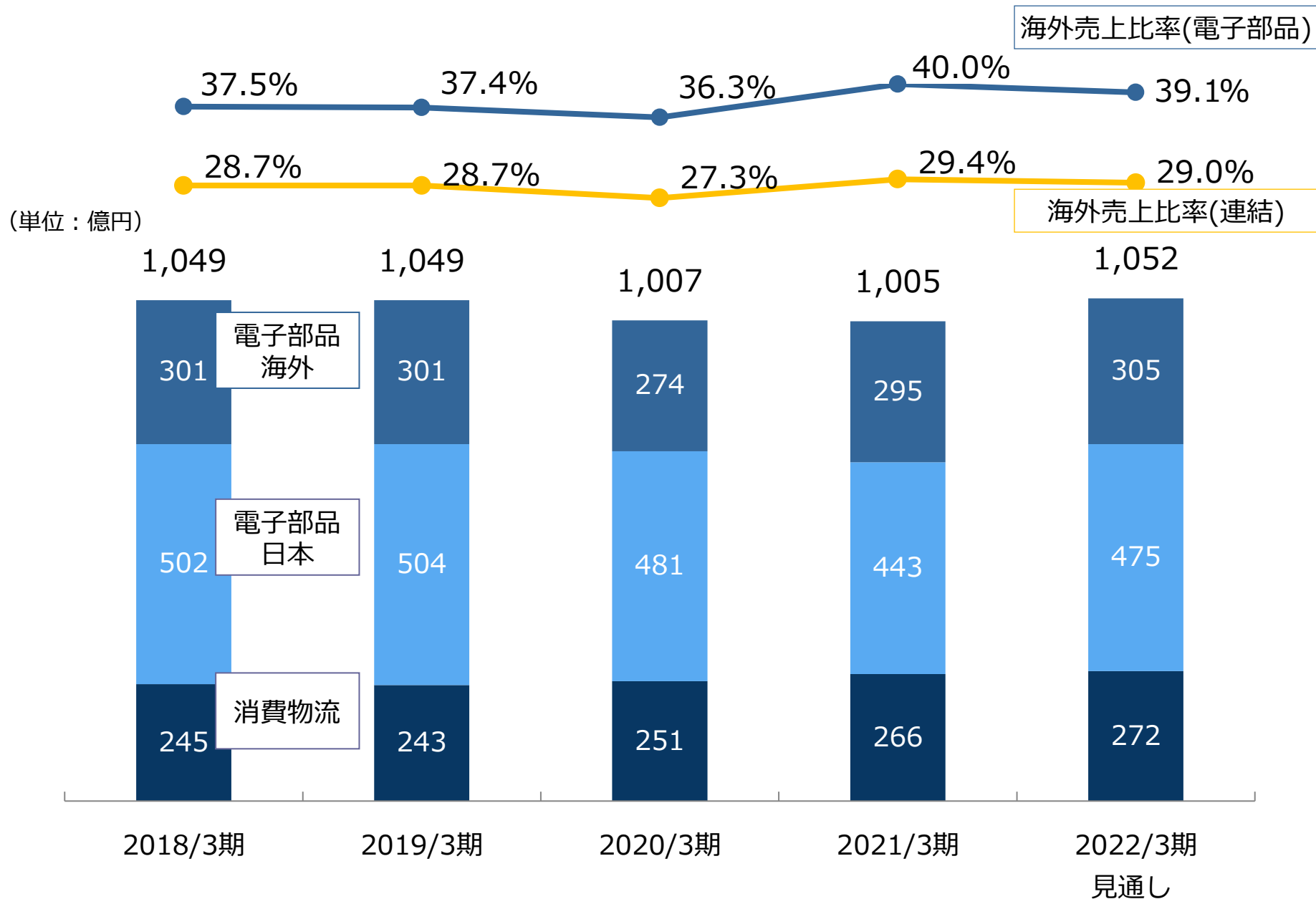
(単位：千㎡)

■ トラック台数

(単位：台)







「戦略投資拡大」 = 「拠点整備」 + 「生産性向上」**【設備投資額】**

(単位：億円)

2020/3期

2021/3期

2022/3期
計画

2023/3期

2024/3期
第5次中期経営計画

2025/3期

100.0

検討中：具体的な検討段階

計画：決定済アイテム

消費物流

電子部品関連

45.5

40.5

58.5

65.0

検討中

検討中

40.0

検討中

38.2

26.6

46.2

45.0

計画

60.0

計画

30.0

計画

【拠点整備】

横浜倉庫建設

検討中 加須2期工事

中京圏で倉庫建設

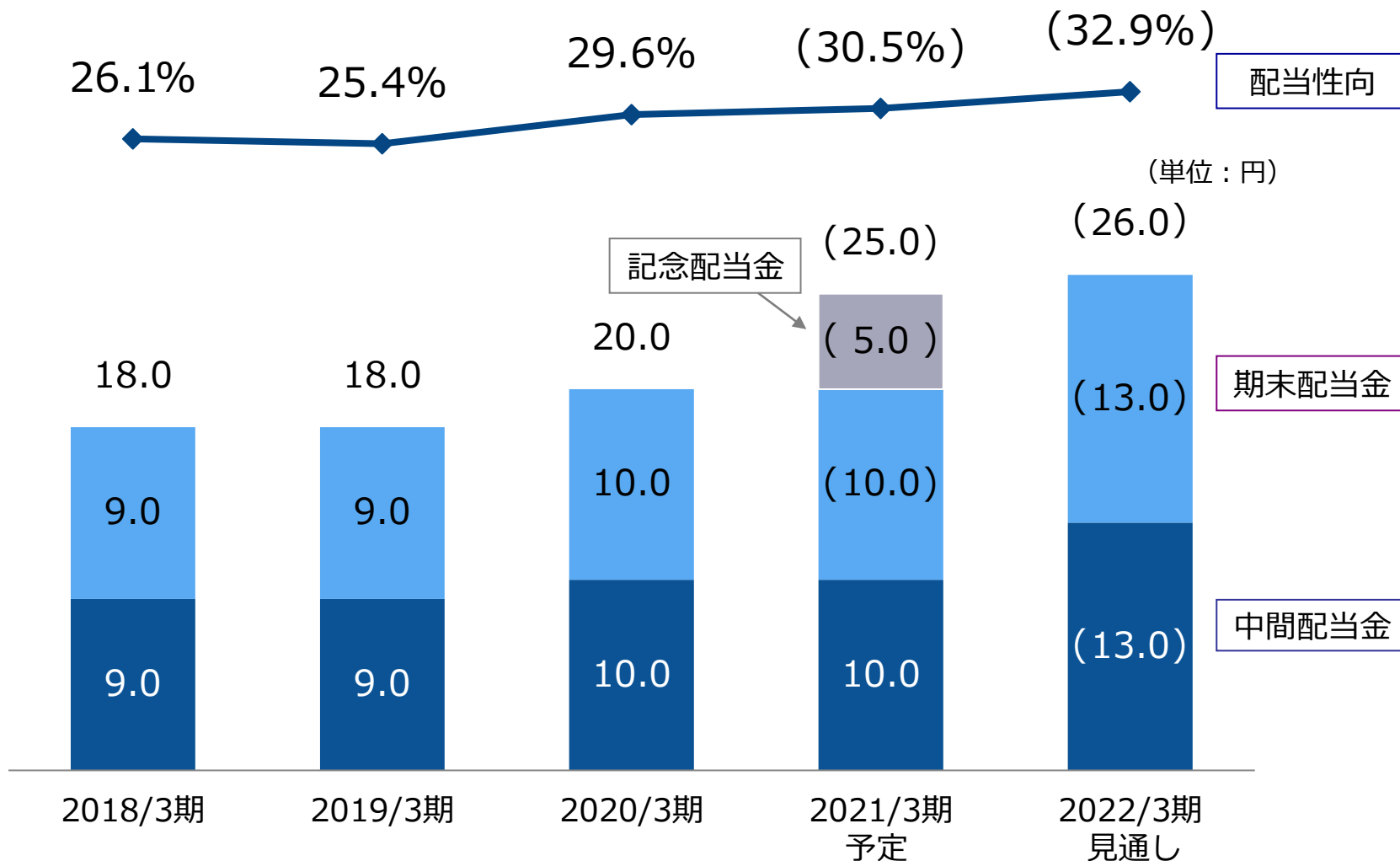
海外拠点の新設・整備など

【生産性向上】

新システム（倉庫・輸出入）

自動化設備

- 投資と株主還元のバランスを取り、安定的に増配を目指す
- 配当性向は概ね30%～40%の範囲となるよう充実させる



ご清聴ありがとうございました
今後ともご支援を賜りますよう
宜しくお願い申し上げます

ご注意：

本資料に記載された業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、不確実な要素を含んでいます。

実際の業績等は、業況の変化等により、記載されている予想数値と異なる場合があります。

また、本資料は会計監査対象外となっています。